

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2671500102		
法人名	社会福祉法人 長生園		
事業所名	グループホーム幸せの里 (たんぼぼ)		
所在地	京都府南丹市園部町上木崎町坪ノ内19番地		
自己評価作成日	平成30年3月3日	評価結果市町村受理日	平成30年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2671500102-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2671500102-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区木屋町通上ノ口上ル梅湊町38番地1「ひと・交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成30年3月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

2ユニット合計18名の利用者が、2棟ある木造平屋建ての建物にて共同生活を行っている。各棟食堂及びリビングは吹き抜けで開放感に満ちた構造で、テラスや芝生の庭、家庭用菜園を設け、利用者は敷地内を自由に行き来し、くつろげるよう環境を整備している。行事やレクリエーションの際にはユニットの枠を超え全員で楽しめるよう企画・立案・工夫している。法人内には診療所や特養を併設しており、ホーム担当の看護師がバイタルチェックや健康相談、受診へのアプローチなど、医療面でのフォローも充実している。又、併設の特養とも連携を図りながら、緊急時などの対応も協力体制にある。万が一、グループホームでの生活が困難となった場合、同法人内の特養への対応も検討可能である。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

社会福祉法人「長生園」誕生の前身は、終戦後身寄りのない高齢者を救済する使命のもと、船井郡の仏教会は養護施設「光華園」を昭和28年に設立し、今もその理念が引き継がれています。長生園は、創設60年余りの歴史の中で多くの各種介護事業所を設立・展開され、複合型高齢者施設の拠点として南丹市にとって欠け替えない役割を担っています。グループホーム幸せの里のリビングには、大きい観世音菩薩像を安置し、日々入居者は手を合わせています。平成25年から2ユニットに増設し、入居者は双方の交流により楽しみ方が増えています。入居者の状況変化に伴っては、施設間連携により特別養護老人ホーム利用も検討され、入居者や家族の先々の暮らしの安心に繋がっています。ドライブ外出は、3コースを提案し入居者の状況を考慮しながら自らの意思で決める工夫は評価できます。今年はコース設定を入居者の希望で決めて実施する予定です。昨年よりアロマ療法(アロマオイルの噴霧)による入居者の精神安定と香りを楽しむことを目的にバラなどの心地よい香りを玄関やリビングに漂わせています。入居者の肌の保湿ケアの一助としてハーブビネガー療法(リンゴ酢を割って塗る)を3年前から行い、肌荒れを解消しています。入居者の寂しい思いに寄り添い、職員の笑い声と一緒に和む心地よい環境を提供されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="checkbox"/> 1. 毎日ある <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> 3. たまに <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="checkbox"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 2. 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念でもある『和み』『尊厳』『安心』を中心とした理念唱和を毎朝朝礼会議の場で行っている。又、事故を未然に防げる体制づくりを、同法人の特養事故防止委員会との連携を図る中でインシデントの有効活用を実践している。	法人の理念「和み」「尊厳」「安心」を掲げ毎朝ミーティング時に全員で唱和し心に刻んで支援に繋いでいる。毎年ケア研修として基本理念をテーマに話し合い振り返りの機会を設けて共有し日々のケアの実践に活かしている。リビングからは、大きい笑い声が聞こえ入居者が職員と一緒に和まれている様子が伺えた。	法人の理念に沿って、地域密着型事業所としての独自の理念或いは方針を職員の思いを込めて具体的な言葉で表現し、アピールされては如何でしょうか。この理念或いは方針は、グループホームが発行する広報誌などに掲載し家族や地域に伝えるとより理解度や信頼度が高まるのではないのでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事[祭り等]の参加、地域で活動されている踊り教室の先生による慰問(月2回)、小中学校の体験学習などの受け入れにて、交流を深めている。又、小物作成・フラワーアレンジメントのボランティア慰問の受け入れ準備を進めている。	地域の情報は、推進会議に参加している地域代表や地域在住の職員から得て、入居者は地元の神社の祭りや初詣、イベントに参加している。地域の小・中学生の福祉学習を受け入れて交流があり、入居者は楽しそうな笑顔で対話している。フラワーアレンジメントや小物づくりのボランティアとの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談等で、直ぐに入居出来ない方に対し、サービスの有効活用・介護方法などのアドバイス、同法人内の他施設検討などを行っている。又、見学などの希望があれば、その都度受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年実施している家族交流会に推進委員を招待し、実際に利用者や家族・ホーム職員と関わって頂く事で、ホームの状態や利用者・家族の思いを把握して頂き、意見交換のきっかけづくりを行った。	会議には、家族代表、元総務省行政相談員、地域住民代表(長生園理事)、市担当者、社会福祉協議会地域包括支援部長、当園職員などが参加している。入居者の現状及び状況や事故、活動を報告し、インフルエンザ感染予防に取り組んでいるなどを説明している。家族交流会に推進会議メンバー、入居者、職員が合流して意見交換の中から「入居者は寂しい思いやマイナス志向になりがちなので、さり気なく寄り添いその思いを汲み取るように…」の意見を貰い反映させるよう心掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度面の情報収集や困りごとなどは、市の担当者と常に連絡を取り合い、アドバイスや指導を受けている。	市の担当者は、運営推進会議のメンバーなのでグループホームの実情を理解されており、既に相談し易く協力関係を築いている。3ヶ月に1回地域ケア推進会議事例検討会でも話し合える機会がありアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1度はホーム内にて研修を行っており、職員間で啓発している。又、原則夜間帯以外の門扉は開放し玄関、勝手口等の施錠は行わずご利用者が行き来出来るようにしている。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、緊急・やむを得ない場合の例外三原則など具体的な行為についても職員は研修し、理解を深めて身体拘束をしないケアの実践に努めている。職員は、禁止言葉を使わないよう特に注意して取り組んでいる。門扉や玄関は夜間のみ施錠し、外に出ようとされる入居者には、職員と一緒に散歩して見守り支援をしている。	

京都府 グループホーム 幸せの里 (たんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画により虐待について学び、日常に行われている介護の状況を検証し、虐待に対する意識付けをしている。又、本園研修委員による外部講師を招いての勉強会も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用中のご利用者が入居中であり、必要に応じて後見人との関わりを通じて周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約行為の前に事前に面談を行い、手続き並びに、制度の説明を行う中で理解を頂き、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接相談が多数を占めているが、ホーム玄関口には意見箱を設置し、苦情の申し立てについては第三者委員を外部に設けている。相談があれば職員会議やミーティング等で、情報の共有や協議するようにしている。	職員は、年1回の家族交流会や面会日を意見や要望を聞き取る機会と捉えているが、入居者一人ひとりの相談や要望がほとんどであり、その都度に対応している。家族から個別ではあるが、「いろんな家事をさせて欲しい」との要望があり、全入居者を対象に本人の有する能力や機能を活かして食事や掃除など出来ることをして頂くように反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議や毎日のミーティングで意見交換し、必要に応じて臨時会議を開催し幅広く意見の聞き取りを行っている。	職員の意見は、毎日のミーティングや日常的に管理者から話し掛けて受け止める姿勢を示している。月1回の職員会議や臨時会議での活発な意見交換の中からも把握している。年2回の人事考課の機会もあり聞き取っている。職員からは、ポータブル吸引機やホーム前の外灯(夜間帯)の設置などの要望があり反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を採用し、評価に繋げている。又、職員の得意分野での活動を後押しし、やりがいのある就業をサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護リーダー研修への受講支援や、内部・外部共に必要と思われる研修などには受講出来るように支援している。		

京都府 グループホーム 幸せの里 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の小規模多機能ホーム運営者と連絡を取り合い、互いに情報の交換や地域資源の発掘、活用をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者契約前には、自宅等へ面接に行き、利用者と顔合わせをし、本人の意向や思いを聞き出しながら、環境面や生活習慣など情報を収集し、関係づくりの一步としての関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階から、利用契約が確定するまでの間に、利用者の状態や介護に於いての不安や困りごと、どんな介護を望んでいるかなどを聞き、家族のニーズを引き出せるように関わりを持っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば、病院の受診を希望している利用者であれば、併設の診療所の医師や看護師と相談し、必要に応じて専門医の受診が出来るように調整を図ったり、可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、食事作り・洗濯・掃除等の家事をご利用者とともにやり、食事や余暇活動などについても一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出などの支援や病院受診の際には、家族に協力して頂き、付き添い等をお願いしている。家族の中には、手料理を振舞って下さる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の窓口となる家族や友人に訪問を勧め、訪問され必要な場合は職員が間に入り関係の維持に努めている。	家族(料理の先生)が趣味を活かして時々料理やおやつ作りに来られている。併設のショートステイ利用時に入居者の妹が訪ねて来て楽しそうに会話している。入居者が長生園に入所している友達に面会に行ったり、馴染みの美容院に行かれるなど、今までの関係が途切れないような支援に努めている。	

京都府 グループホーム 幸せの里 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	例えば食事の際、利用者のテーブル席の間に職員が座り、会話の橋渡しをしたり、集団レクを行う場合には、利用者個々の機能に合わせ支援し、みんなで輪になれるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方であっても、必要に応じてホームでの情報を求められれば、同意を得た上で提供している。利用者の退居後も訪問される家族もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望が引き出せる・訴えやすい様になり、日頃の会話の中から把握に努め、職員間で共有できるようにケース会議の議題として検討している。	入居時には、本人や家族の思いや今後の意向などを聞き取り、居宅介護支援専門員からもその人の生活歴や心身の状況などを把握しアセスメントしている。その後は、日常の会話や、表情、仕草などから把握し追加アセスメントしている。毎月のケース会議に参加できない場合は、事前にケース情報を提供している。全職員がケース会議録から情報を共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の段階から成育歴・生活環境の把握に努め、ご家族・他事業所との連携を図り、ご自宅や生活されている場へ出向いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のADLや認知症の程度などを鑑み、可能な限り本人の出来る動作を引き出せるような支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の要望や状況の変更があればミーティングや職員会議で検討し、介護計画へ組み入れている。	関係機関からや初回面談時のアセスメント情報をもとに暫定プランをたてて様子を見ている。気付きなどを記録し職員は共有して支援している。朝のミーティング時や毎月のケース会議で担当職員がモニタリングして介護計画に繋いでいる。介護計画の見直しは年1回とし、事前に本人や家族の意向を聞き取り医療情報も得ている。入居者の状況変化に伴い随時現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記し重要度の高い情報は、合わせて職員の連絡帳に記入し介護計画へ組み入れている。		

京都府 グループホーム 幸せの里 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護ベッドを導入し、ご利用者の身体状況に応じて使用している。又、機械浴での入浴が必要な利用者がある場合は、特養で入浴をしに行くなど、柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の飲食店や商店に出かける時には事前に連絡をし、注文やレジでの支払いが円滑に出来るよう配慮や理解、協力が得られるようお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人に併設している診療所を中心に入居前のかかりつけ医や専門医への受診支援や情報共有の為に連絡調整を行っている。	入居者は、法人内診療所の医師の訪問を週1回受けて健康管理が図られている。協力医療機関やかかりつけ医の受診時は、職員や家族が同行し双方の情報を確認し共有して支援している。今年4月から毎週、歯科の訪問を受け、より口腔ケア支援の充実が図られる予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている診療所の看護師1名をグループホームの担当看護師として配置し、健康管理や受診調整を担って頂いている。又、担当看護師他が、月に1度は利用者全員を対象にバイタルチェックや健康相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設診療所を介し、協力医療機関の地域連携室MSWと調整を図りながら、本人、家族等の意思を交え、協力出来る様に連絡調整し、担当医など関係者と共にカンファレンスを行う事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状態に変化があった際や、家族より相談を受けた場合、意向に基づき併設特養への利用に向けて調整を図り、病院での対応など、各専門職や関係機関と協議しながら調整している。	「看取りに関する指針」を定め、入居時には家族にその看護の具体的方法や看護師常駐(兼任)1名を責任者に定めるなど丁寧に説明し納得のうえ同意書を作成している。その後は入居者の変化に応じて家族と方針を再確認したり、病院対応や併設の特別養護施設利用に向けた調整などを図り家族と認識を統一している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当看護師などから、急変時の症状や対応を指導されている。利用者個々の既往や状態に応じアドバイスもあり、消防署職員による救急指導も受けている。		

京都府 グループホーム 幸せの里 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練や、非常通報装置の使用方法を職員研修の一環でレクチャーしている。有事の場合は同法人内の事業所が一丸となる対応が可能。又、消防署とはホットラインで繋がっている。	年2回(昼、夜)想定した避難訓練を消防署と共に入居者も参加して実施している。職員は、非常通報装置の使用方法を研修している。有事には、法人本館を避難場所に定め、法人内自衛消防隊の出動や法人内事業所の協働対応が行われる。園部消防署とは、消防協定を締結し常時ホットラインで連携されている。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格や機嫌などを加味し対応している。個人的な話をする際には居室内で話すなど、他の利用者との関係などにも配慮した対応を心がけている。	運営規程には「利用者の意思及び人格を尊重し…」と明記し、職員は「高齢者の気持ちを考える」をテーマに研修をして意識を高めている。入居者の尊厳やプライバシーを損ねないよう配慮し、馴れ馴れしい言葉遣いをしないよう注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に利用者の意思を普段より尊重している。認知症により判断が出来ない方については、ご家族に本人の好みや意向を聞き、支援の参考としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や決められた日課については、その都度案内しているが、本人の希望やペースを尊重し、無理強いをしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装については、本人の好みに合わせて対応している。衣類についても、毎日自分の選んだ服を着ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・準備・片づけに至るまで、可能な限り利用者を交えながら行っている。	事前に入居者の好みや食べたい物を伝えて、長生園の管理栄養士が献立表を作成し、これを基に職員は入居者と一緒に調理している。入居者の機能や能力に応じて食材の皮むきや切る、煮物やあえ物を混ぜる、味見や盛り付け、テーブルを拭くなどをして貰っている。入居者の席は、職員が間に入って会話を交わしながらゆっくりと食事を楽しめるよう工夫している。入居者一人ひとりの誕生日にはケーキで祝っている。近くの喫茶店や回転寿司にも行って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養部の管理栄養士から助言を得て、個々の摂取状況や栄養状態に応じて対応している。水分については、ティータイムを設けたり、水筒にお茶を入れて居室へ持ち帰る方もあり、支援している。		

京都府 グループホーム 幸せの里 (たんぽぽ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自分で出来る方は、声掛けや確認を行い、援助が必要な方は、状態に応じて介助している。又、口臭の強い方に対しては、口洗液を使用しうがいをして頂いている。必要に応じ歯科受診の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙おむつや尿取りパットを使用している方であっても、定時・随時(本人の排泄状況に応じ)トイレへの声かけや誘導を行い、快適に過ごせるように支援を行っている。	日々の排泄記録から入居者一人ひとりのリズムを把握し、尿意がない方にも時間やわずかな仕草をキャッチしてトイレへの誘導を支援している。誘導時は「今はどうですか?」と耳元で小声で話し掛けている。誘導を拒否される方には少々時間を置いて様子を見ながら再度声掛けしている。自分でパット交換される方や大パットから小パットに改善されたケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	併設診療所の看護師に助言を仰ぎ、職員間で原因を検討し実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務の都合上、夜間の入浴は無理であるが、午前・午後入浴のタイミングを尋ねたり、『入る・入らない』についても選択できるように声掛けをしている。季節に応じて冬至にはゆず風呂をしたりしている。	毎日10時～16時の間に週2～3回入浴を基本とし、入居者の希望にも可能な限り柔軟に対応している。拒否される方には、無理強いないが職員や時間を変える工夫をしたり、止む無く清拭に変更する場合もある。職員は、対話をしながらゆっくり入浴を楽しんで貰うよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンでの室温調整や、明るさの調整、布団の形状など本人に応じて対応している。眠れない方に関しては、リビングなどでテレビを一緒に観たり会話を交えながらお茶を飲むなどの対応もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	殆どの利用者が服薬・保管管理が出来ない為、介護者が代行している。服薬の際に本人が疑問に思われている事に対して説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技、得手・不得手に応じ、レク活動やクラブ活動、軽作業や外出に至るまで本人の状態に合わせて対応し、支援を行っている。		



京都府 グループホーム 幸せの里 (たんぼぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物・外食など、個々の希望に応じ支援している。個別に対応が不可な場合は家族の協力を得ている。又、外出先の店や施設に事前連絡し、店員などの協力を得たり場所の確保もお願いしている。	敷地内の広々とした2ユニットを繋いでいる「和みの庭」は、入居者が日常的に散歩や日光浴をして双方の交流にも繋がっている。昨年は初めて1・紅葉ドライブ、2・スプリング日吉、3・京都イルミエールの3コースを提案し、入居者の意思決定でドライブ外出を実施した。反省点もあったが、今年はコース提案ではなく、入居者自らが望むコースで実施したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの際に、自分で支払いが可能な方に関しては、レジの際、お金を渡し、支払いをして頂いている。出来ない方については、商品の値段などを説明しながら、支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい利用者は、希望があればホームの電話を使用して頂いている。手紙の支援は暑中見舞いや年賀状を、個々の状態に応じ支援をしながら作成し、家族や友人などに送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は毎日掃除をし、清潔を保っている。又、四季折々の花や植物、季節に応じた飾りやしつらえで、和めるように環境整備に努めている。時にはUSENを流し、心地よい空間を演出している。	リビングは、太い柱と梁、高い天井、南側はワイドなガラス戸で採光が良く広々としている。ウッドデッキを備え、畑や山、園部の街が一望でき開放感がある。円卓を設置し入居者の危険性への配慮が伺える。リビングと玄関にはアロマオイルを噴霧させ、入居者の精神安定を図り柔らかな心地よい香りが漂っている。入居者が歌いやすい童謡や懐メロの曲名を解り易く貼り、職員と一緒に歌って楽しく過ごされている。リビングの一角に竿を下げた物干しは生活感があって良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に好きな場所で過ごして頂いている。利用者同士、自然と会話の輪が出来る事が多いので、特に職員が介入しないが、トラブルなどに発展しそうな場合には間に入り、解決に向けた支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者各々が、自宅から持ち込んだ調度品や家具に囲まれ暮らしている。又、生活の中で必要な物や環境作りが必要であれば、家族と相談し対応している。	居室には、ベッド、クローゼット、エアコン、床頭台、カーテン(防災)を備え付けている。窓ガラスからの陽射しで明るく適度の広さである。使い慣れた筆筒を持ち込み、その上に家族の写真や好みの縫いぐるみ、小物を飾り居心地よく過ごせるように工夫している。床頭台の設置は、入居者の利便性に配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒や怪我などの要因になる物に関しては、配置方法を考えたり撤去するなど対応をしている。又、歩行が不安定な利用者の食堂でのテーブル席は、極力居室に近い場所で設置するなどの工夫もしている。		